



◀沖美町三高地区にある「三高の菊発祥之碑」。

平地が少ない三高では、短い日照時間でも育つ菊の栽培が昭和24年頃から行われ、山本農園はその翌年から栽培を始めました。菊の生育に欠かせない大量の水が三高ダムにあることも恵まれた環境です。朝収穫した菊は当日に選果場へ運ばれ、手作業を介して、機械で10本ずつの束にします。品種・規格別に箱詰めを終えると、三高港から広島へ運びます。



4月中旬～1月下旬まで自然に咲かせる栽培で、冬～春先の出荷用は、秋から電照菊で作ります。「咲かせるために電灯を点けるんですかと言われるんですけど、開花の抑制なんです」と山本さん。電照菊は戦後、愛知県の渥美半島で実用化。今では一年中菊が買えるようになりました。



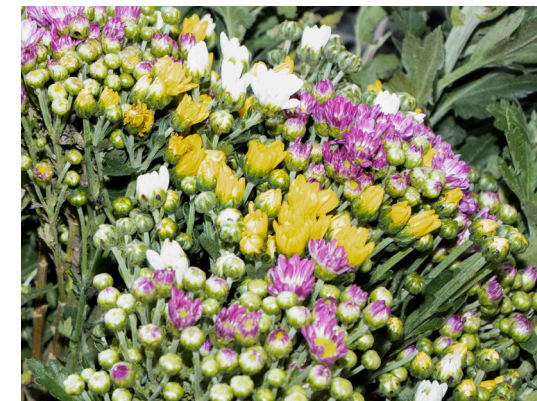
ETAJIMA GoON!

Vol.29

山本農園（沖美町）
江田島市農業後継者クラブ会長
やまもと みつひこ
山本 満彦さん

「夜の星」を露地栽培している畑にて。翌日には全て刈り取って無くなる前の貴重な目に、撮影させていただきました。

何年もやって、上手に腕を磨くことの大切さ



▲通年で約50種類の菊を栽培する

沖美町出身の山本さんは、家族三代の菊農家。高校卒業後、菊の生産地で有名な福岡県八女市で、1年間住み込み研修。修了後、19歳で家業を継いだ。「継承間もない頃より、ある程度仕事も任せられた今のほうが責任を強く感じる」と山本さん。近年の猛暑対応、機械化による省力、農薬散布や肥料計算など苦心することも多い。朝6時半から軽トラで、三高に散在する4ヘクタールの圃場を収穫に回る。三高港前の選果場から県内外へ、盆時期は約12万本を出荷する。

後継者クラブの名称通り、親の紹介などで入会することが多いが、新規入会も歓迎で、「農業は相場の世界。何年もやって上手に技術を磨かないと難しいが、もしやりたいって人がおられたら、この後継者クラブ、仲間もいるから」と山本さん。八女市での研修後も、現地で知り合った友達と今も会って情報交換を欠かさない。それぞれが仕事をしつつ中、会合や交流を大切にしている意義を、後継者クラブにも絶えず傾注する。



▲選果場での作業を経て出荷される

新鮮野菜がお手頃価格で！ 三高港前直売場

山本さんの祖父が野菜を栽培。夏にはイチジクや枝豆、秋には栗など、旬の作物が並びます。テレビ番組でも見かけるあのバターナッツかぼちゃも！菊は、市場出荷だけでなく、お手頃価格で店頭販売でも買えます。



ETAJIMA GoON!(えたじまゴーオン)とは？ 市内で活躍する人やお店をリレー形式で紹介。掲載された人が次の取材先を紹介する、“つなぐ・つながる”をテーマにした企画です。

山本農園
Instagramは
こちら！▶

